

# 住

## 愛知建設組合

# 建設職人の権利を守り

# 技術を伝承

### 令和元年に愛知建設組合に名称変更

建設労働者の権利と生活を守ることを主な目的に、愛知建設労働組合として昭和38年（1963）に設立されました。当初は建設労働者の経済的・社会的地位の向上が目的でしたが、社会保障制度の確立とともに国民健康保険や国民年金基金などの業務の担い手となりました。さらに昭和47年（1972）に職業訓練法人愛知県建設センターを発足し、優秀な技能者を多く輩出し、技術の向上・伝承がもうひとつの柱となっています。令和元年（2019）に名称を愛知建設組合に変更しました。

### 本丸御殿の精巧な模型作りなどを通じて建設業をPR

組合員は現在約10,000名です。建設関係の仕事内容が昔とは違い、工場であらかじめ加工された部材を、現場で組み立てることが多くなりました。しかし、古くから伝えられてきた職人の技は財産その



精巧につくられた8分の1の本丸御殿の模型



組合結成50周年を記念して東山動植物園に贈られた木製の屋根付き休養施設

ものです。建設関係の技能を広く一般に知ってもらうことも、組合の大きな使命となっています。

そこで建設関係の仕事に関心をもち、理解してもらうための活動として平成20年（2008）からは毎年12月に組合の近隣の方々を招き「あいけん祭り」で、ミニ門松の製作や餅つき大会等を行っています。また、平成23年（2011）からこれまでに東山動植物園へ一枚板の木製ベンチを100台寄贈しています。このベンチに使用した樹種は桜、栗、楠など25種に及びます。さらに、平成25年（2013）には組合結成50周年を記念し、東山動植物園へ木製の屋根付き休養施設の寄贈を行ったほか、名古屋市内の小学校へは、机と椅子及び工作などの材料として間伐材を寄贈しました。

名古屋城本丸御殿復元工事の際は名古屋市技能職団体連合会の一員として加子母村へ木曾檜の伐採現場へ出かけたほか、8分の1の精巧な本丸御殿の模型を作り、職人展で披露してきました。また、20分の1の本丸御殿の玄関車寄せの骨組み模型を製作し、名古屋市の姉妹友好都市であるイタリアのトリノ市に贈りました。